

第4学年国語科学習指導案

日時 平成21年11月20日(金) 4校時
児童 4年3組 男16名 女17名 計33名
指導者 高橋 志保

研究課題

叙述を基にして考えを深める指導の在り方について

- 1 単元名 場面をくらべて読もう
教材名 「一つの花」(光村図書 4年下)

2 単元について

(1) 児童観

児童は「読むこと」の学習において、第3学年「場面をそうぞうしながら読もう」では、主人公を取り巻く情景を叙述に即して想像しながら読む学習を行った。また、第4学年「本と友達になろう」では、手がかりとなる語句や文にサイドラインを引いたり、ノートに書きまとめたりしながら場面の様子や登場人物の心情・人柄を考えてきた。

4年3組の児童は、国語に対する意欲は全体的に高く、4月からブックウォークの取り組みを始めたことにより、昨年度に比べ積極的に読書する児童が増えてきている。

これらの学習や活動を通して、児童は物語文の読み取りの際、場面の様子や人物の様子が分かる叙述に着目することができるようになってきた。しかし、浅い読みになったり、想像を広げすぎて叙述から離れてしまったりすることが見られた。そこで、叙述に戻って想像することで、児童は作品を深く味わうことができるのではないかと考える。

(2) 教材観

国語科第3学年及び第4学年「C 読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。本単元を通して育てたい主となる能力は「C 読むこと」の内容「ウ場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」と、「エ読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」である。

この教材は、戦争の激しい時代に生きるゆみ子一家の物語である。戦争中の物質的窮乏により、ゆみ子が初めて覚えた言葉は「一つだけちょうだい」であった。この言葉から始まり、「一つだけ」のコスモスと、「いっぱい」のコスモス、「一つだけ」の食べ物と「お肉とお魚とどっち」など戦争中と戦争後の場面を比べてその違いを読み取ることができる。この言葉には、戦争中の人々の苦しさや悲しみが表現されているだけではない。人間の心の根本にある真の強さや家族愛は、どの時代においても変わることがないと強く訴えており、これが物語の主題となっている。またこの物語は三人称客観の視点で描かれている。登場人物の心情を直接に語っておらず、さらに対比的な表現、比喩表現も多く含まれている。これらのことから、登場人物の行動・会話などに着目し、叙述を基にして登場人物の様子や情景を読むことに適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の点に留意して指導していきたい。

- ① 初発の感想をもとに、学習課題について学級全体で話し合い、主体的に解決していこうとする意欲をもつことができるようにする。
- ② 場面の移り変わりを読むことができるようにするために、教材文に繰り返し出てくる「一つ」という言葉に着目する。また、文中の対比的表現、比喩表現、文末表現、指示語・接続語にも着目させ、それらを手がかりに読みを豊かなものにする。
- ③ 各場面でのまとめをもとに、感想文を書く。感想文を書くことにより、読み取ったことを整理し、自分の考えをはっきりともつことができるようにする。また、新たに生まれてきた考えを書くことで、自分の読みの変容と深まりを感じることができるようにする。

3 学習指導目標

(1)国語への関心・意欲・態度

○場面の情景や登場人物の様子を叙述を基にしながらかもうとしている。

(2)読むこと

◎登場人物の様子や場面の移り変わりを、手がかりとなる言葉に着目し、想像しながら読むことができる。

○題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもち、友達の考えと比べることができる。

(3)言語についての知識・理解・技能

○題名や時代背景を理解するために、必要な語句を理解することができる。

4 指導計画

(「読むこと」10時間)

学習内容	(時数)
○ 教材文を読んで、あらすじをつかみ、初発の感想を書くこと。	(1)
○ 初発の感想をもとに学習計画を考えたり、立てたりすること。	
○ 新出漢字や難語句を学習すること。	(1)
○ 戦時下における生活の苦しさと、ゆみ子に対する母親の気持ちを読み取ること。	(1)
○ ゆみ子に対する父親の様子や思いを読み取ること。	(1)
○ 父親が戦争に行く日の母親の様子を読み取ること。	(1)
○ 一つの花をゆみ子に手渡し、戦争に行く父親の様子や思いを読み取ること。	本時 (1)
○ 十年後のゆみ子の様子を読み取ること。	(1)
○ 「一つの花」の意味することを考えること。	(1)
○ 場面ごとに読み取ったことをもとに、感想「一つの花」という題名について考えたことを書くこと。	(1)
○ 感想の交流会をし、「一つの花」という題名について考えたことを深めること。	(1)

5 本時の指導目標

(1) ねらい

①国語への関心・意欲・態度

- ・父親への会話や行動から一つの花をゆみ子に手渡し、戦争に行く父親の様子や思いを読もうとしている。

②読む能力

- ・父親の会話や行動から一つの花をゆみ子に手渡し、戦争に行く父親の様子や思いを読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)
導入 5分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お父さんはどんな思いで一つだけの花をゆみ子にあげたのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面掲示を見せたり、前時のまとめを発表させたりすることにより、前時の学習内容を想起させる。 ・人物の行動や言葉から、父親の様子や気持ちを読み取ることを確認し、学習の見通しをもつことができるようにする。
	<p>3 学習場面を音読する。</p> <p>4 学習課題を解決する。</p> <p>(1)父親の思いが表れている文を探す。</p> <p>(2)ゆみ子に対する父親の思いについて学び合う。</p> <p>5 読み取った内容を感想として書きまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉読をさせる。 ・父親の思いが表れている箇所を考えながら読むようにする。そのためには、お父さんの言動や行動に着目して読んでいけばよいことを確認する。 ・課題に対する父親の思いが表れている文を全体で探し、ノートに視写させる。 ・コスモスの花はどんな所に咲いているのか、どんな花なのかを考え、コスモスの花が象徴しているものが何かに触れながら父親の思いを考えるようにする。 ・「一つだけあげよう」の言葉から、一輪のコスモスに託した父親の思いを考えるようにする。 ・一つだけの花には、父親のゆみ子に対する深い愛情が込められていることを自分の言葉でまとめるようにする。 <p>◇一つの花にこめた父親の思いが分かる叙述に着目し、自分の考えをまとめることができたか。(ノート)</p>
	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>(1)読み取った内容を発表し合う。</p> <p>(2)次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞き、一つの花にこめた父親の思いについて全員で振り返るとともに、友だちの考えのよさに気付くことができるようにする。 ・10年後のゆみ子について読み取ることを確認し、意欲をもつことができるようにする。

